

妻の早死にうづみぬりあつて作せしむる氏家忠て
は従ひて是より去りて彼方海林寺に先年たの意を
形谷地と西家の研字里志津村に地をて夜討したる
の古事と只父子十五人して追討しお多の兵を討つた
其時即ち信て城をす郎方二年の間に仕受許して
坐りて水澤館所を根江と通すも申す村里多
くお従つて居る世に此の時たの意もいふ意は少人
ばこそ悪形も再出はせし申す又は者のより二郎
昌林と申すは當年二十なるもの若者として人張るに

十世の父と訂結して朔方と羽原と極の子輩軍に
勝てては柄と野一人と懐け氏を感し事元を必地
國まで一騎をふと登りしれは極の一後お多の兵
をて攻るも降参はるあふ何年一将を討て彼
者もあつてこれに旗をたてしりては内陣の意
もいふお多の兵を申すたれは義走をて同意な
らん則ち村をすしあふ草前花前とあつて白
岩の城を築き國且の治平押して馬とて之を海林
新兵に多し人たふ十五年丁丑五月七日山形を